

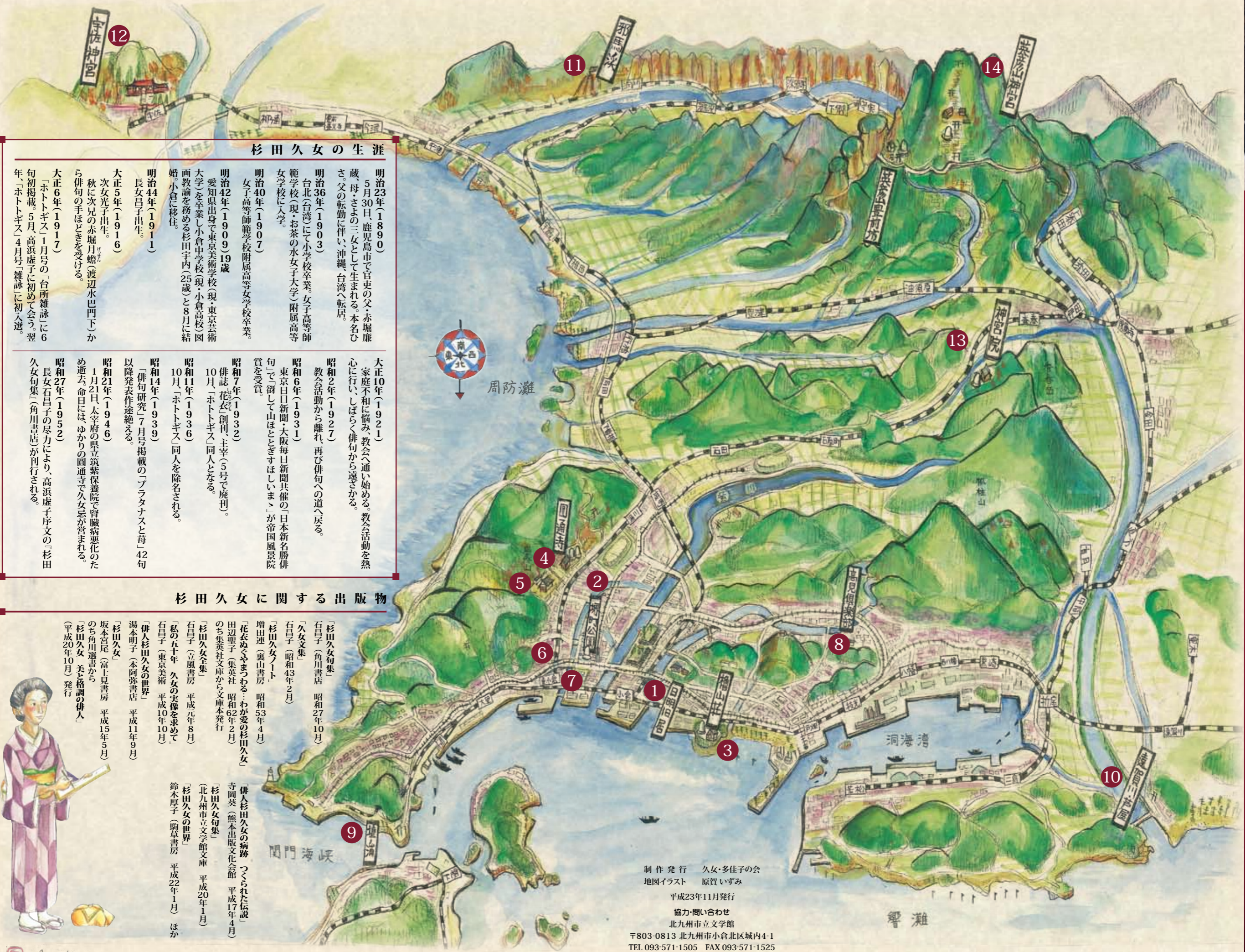


杉田久女の足跡をめぐる文学マップ

杉田久女

Sugita Hisajo

大正、昭和の女性俳句の草分け的存在として活躍した杉田久女。結婚とともに小倉に住み、その後亡くなるまで小倉で過ごした久女ゆかりの地をその俳句と随筆で辿ります。



杉田久女の生涯

明治23年(1890) 5月30日、鹿児島市で官吏の父・赤堀廉蔵、母・さよの三女として生まれる。本名ひさ、父の転勤に伴い、沖縄、台湾へ転居。

明治36年(1903) 台北(台湾)にて小学校卒業。女子高等師範学校(現・お茶の水女子大学 附属高等学校)に入学。

明治40年(1907) 女子高等師範学校附属高等女学校卒業。

明治42年(1909) 19歳 愛知県出身で東京美術学校(現・東京芸術大学)を卒業し小倉中学校(現・小倉高校)国画教諭を務める杉田宇内(25歳)と8月に結婚。小倉に移住。

明治44年(1911) 長女昌子出生。

大正5年(1916) 次女光子出生。秋に次兄の赤堀月蟾(渡辺巴門下)から俳句の手ほどきを受ける。

大正6年(1917) 「ホトトギス」1月号の「台所雑詠」に6句初掲載。5月、高浜虚子に初めて会う。翌年、「ホトトギス」4月号「雑詠」に初入選。

大正10年(1921) 家庭不和に悩み、教会へ通い始める。教会活動を熱心に行い、しばらく俳句から遠ざかる。

昭和2年(1927) 教会活動から離れ、再び俳句への道へ戻る。

昭和6年(1931) 東京日日新聞・大阪毎日新聞共催の「日本新名勝俳句」で「洞して山ほととぎすほしいま」が帝国風景院賞を受賞。

昭和7年(1932) 俳誌「花衣」創刊、主宰(5号で廃刊)。

昭和11年(1936) 10月、「ホトトギス」同人となる。

昭和14年(1939) 「俳句研究」7月号掲載の「ラタナスと母」42句以降発表作途絶える。

昭和21年(1946) 1月21日、太宰府の県立筑紫保健院で腎臓病悪化のため逝去。命日は、ゆかりの圓通寺で久女忌が営まれる。

昭和27年(1952) 長女石昌子の尽力により、高浜虚子序文の「杉田久女句集」(角川書店)が刊行される。

杉田久女に関する出版物

- 「杉田久女句集」 石昌子(角川書店 昭和27年10月) 「久女文集」
- 「杉田久女ノート」 石昌子(昭和43年2月)
- 増田連(裏山書房 昭和53年4月)
- 「花衣ぬきまつわる…わが愛の杉田久女」 田辺聖子(集英社 昭和62年2月) のち集英社文庫から文庫本発行
- 「杉田久女全集」 石昌子(立風書房 平成元年8月)
- 「私の五十年 久女の実像を求めて」 石昌子(東京美術 平成10年10月)
- 「俳人杉田久女の世界」 湯本明子(本阿弥書店 平成11年9月)
- 「杉田久女」 坂本宮尾(富士見書房 平成15年5月) のち角川選書から
- 「杉田久女 美と格調の俳人」 (平成20年10月) 発行
- 「俳人杉田久女の病跡 つくられた伝説」 寺岡葵(熊本出版文化会館 平成17年4月)
- 「杉田久女句集」 (北九州市立文学館文庫 平成20年1月)
- 「杉田久女の世界」 鈴木厚子(駒草書房 平成22年1月) ほか

制作発行 久女・多佳子の会
 地図イラスト 原賀いずみ
 平成23年11月発行
 協力・問い合わせ 北九州市立文学館
 〒803-0813 北九州市小倉北区城内4-1
 TEL 093-571-1505 FAX 093-571-1525

地図イラストは、昭和初期の北九州及び 周辺地域をイメージしたもので、位置関係等正確に再現したものではありません。

